

創刊の辞

京都大学大学文書館は、「京都大学の歴史に係る各種の資料の収集、整理、保存、閲覧及び調査研究を行う」(京都大学大学文書館要項)ことを目的として、2000(平成12)年11月1日に設置された。以来ちょうど2年、大学文書館は学内非現用行政文書の移管と整理、学内外の京大関係者より寄贈された多数の個人資料の整理をはじめとした様々な業務を行い、来るべき時計台記念館の竣工による本格開館(2004年4月を予定している)に向けて着々と準備を進めているところである。

われわれは、上述の目的にもある「調査研究」の成果および大学文書館の活動状況を公表し、世の評価を受けることが必要であるとかねてより考えていた。それは、大学という研究教育を使命とする組織に所属する機関として、また複数の専任の教員が勤務する機関として当然の責務と言うことができよう。ここに『京都大学大学文書館研究紀要』を創刊するのも、その責務を果たす一つの方法と位置づけている。

われわれは、本研究紀要において次の二つの課題を追究していきたいと考えている。一つは『京都大学百年史』の編集作業以来の蓄積のある大学・高等教育史についての研究である。近年盛んになりつつあるこの分野の研究状況を踏まえ、大学文書館の所蔵する豊富な資料をもとに、実証的でなおかつ独創的な研究成果を生み出すことが期待される。もう一つは、アーカイヴズの理論と実践についての研究である。ようやく日本でも定着しつつあるアーカイヴズについて、実際の活動を踏まえながら、その目的や役割の考察、実践面での方法論の構築が現在求められている。大学のみならず、あらゆる組織において自らの活動の軌跡を記録し、将来に向けて効率的に保存し、同時に社会に広く情報公開を行うアーカイヴズが今後社会のなかで重要性を増していくことが予想される現在、この研究も早急に行わなければならないものであろう。

これらの二つの課題はいずれもこれからの大学のあり方を考える上で不可欠なものと言えよう。われわれは、学内外を問わず広く大学およびアーカイヴズに関係する方々とこれらの課題について議論を深めていきたいと考えている。本研究紀要が、関係諸機関並びにアーカイヴズ界の今後の発展の一助となれば、これにまさる喜びはない。各位のご理解とご協力をお願いする次第である。

2002(平成14)年11月

京都大学大学文書館長

佐々木 丞平